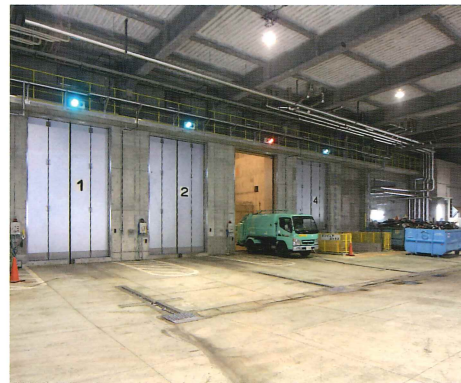


熱回収施設のごみ処理の流れ

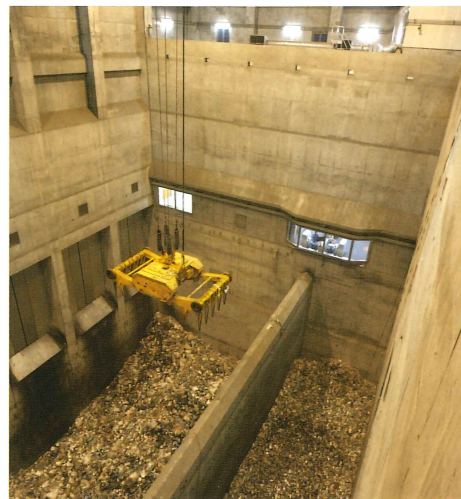
各処理工程で、先進の技術を駆使し、優れた処理能力を発揮します。



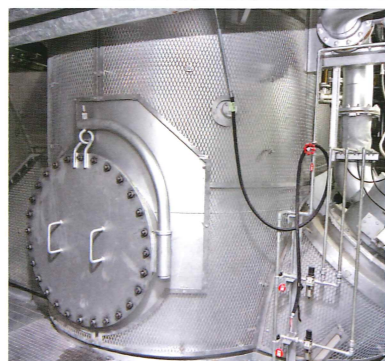
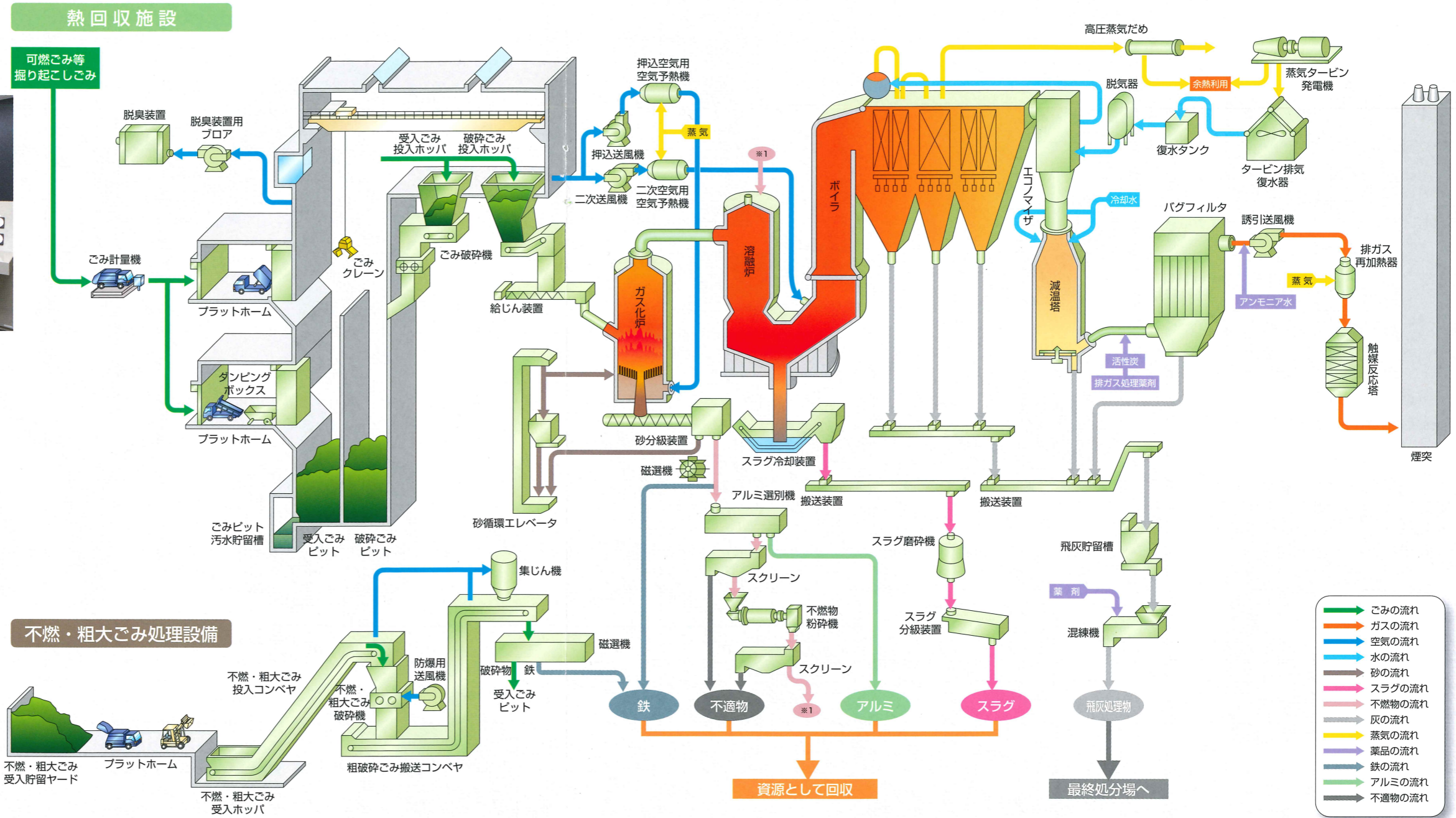
●中央制御室
熱回収施設内の機器と設備全体の監視・制御や運転操作をここで集中して行っています。



●プラットフォーム
計量を終えた収集車はプラットフォームへ進入し、投入扉を開いてごみピットへ投入します。



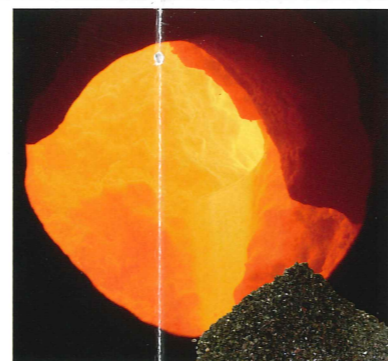
●ごみピット・ごみクレーン
ごみピットは受入ごみピットと破碎ごみピットがあり、ごみクレーンで受入ごみ投入ホッパ及び破碎ごみ投入ホッパに投入します。



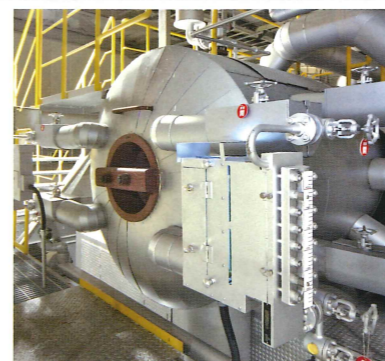
●ガス化炉
供給されたごみは500~600℃の流動する砂と混合し、ガス化炉で熱分解した後、溶融炉へ送られます。



●溶融炉
約1250℃の高熱で灰分を溶融し、減容化及び無害化を図ります。



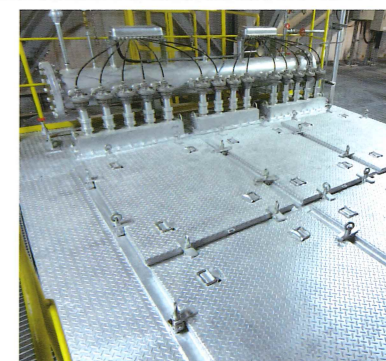
●溶融炉内
溶融した灰分は水冷され「スラグ」になります。



●ボイラ
排ガスの熱を利用し、ボイラで蒸気を作ります。



●蒸気タービン発電機
ボイラで発生した蒸気を利用して、最大1900kWの発電をしています。



●バグフィルタ
排ガス中のばいじんと有害物質は、この装置により取り除きます。